

# 安心して生活できる学校づくりを目指した生徒会活動

## <実践例 中学校全学年 特別活動（生徒会活動）>

### 1. 実践

#### (1) 岐阜中央中三本柱

岐阜中央中では、「あいさつ」「掃除」「合唱」を三本柱として位置付けている。これらは、開校以来、学校として大切にしてきた経緯があるが、生徒自身も生徒会執行部を中心に三本柱をさらに強く、太いものにしたいと願い、全校生徒に語っている。その結果、今では、全校生徒の誰もが「大切にすべきもの」と理解している。これらを大切にすることで、基本的な生活習慣はもちろん、よりよく生きるために自分のすべきことを考え、正しく行動する態度を育てることにつながると考える。さらに、そのような行動や態度で生活することで、誰もが安心して生活できる学校につながると考える。

生徒会活動を進めていく上で、指導する側として、ア. 夢（願い）をもたせる。イ. 願いの実現に向け、具体的な手だてを考えさせる。ウ. 教師は、生徒の願いが実現できるよう可能な限り **生徒の考えた活動** をバックアップする。その際に通常の教育課程の中で行い、企画から準備、後片付けまできめ細かい動きや配慮を考え、やりきらせるようにする。エ. 執行部や中心となって活動する生徒の表面的には見えない活動や思いを全校生徒に紹介し、みんなで盛り上げたり創り上げたりできるようにする。オ. 生徒自身の力でやりきれたことを価値付け、次へつなげていく。以上の5点を大切にしながら実践してきた。

#### ① あいさつ運動

##### <取組>

生徒会執行部は、あいさつの輪を広げたいと願い、毎朝生徒昇降口前に立ち、あいさつ運動を行っている。また、各学級の議員や生活向上委員も担当曜日を決め、あいさつ運動を行っている。本校と他校の異なる点として、中庭を一般の方が通行することがある。岐阜中警察署など官公庁に勤務される方々が朝の時間帯に多く通行されている。学校外で一般の方にあいさつをすることは難しさがあったり、あいさつしているかが分かりにくかったりする。しかし学校の敷地内であれば、あいさつ運動をする生徒会の仲間につられて、地域の方にもあいさつをすることができるのではないかと考えた。

また、一般の方へのあいさつ以前に、生徒同士やあいさつ運動を行う執行部や議員、生活向上委員へのあいさつなど、身近なところからあいさつを増やしていきたいという願いをもち、そのために、全校を巻き込んだ活動を仕組むことになった。

##### <成果>

生活向上委員主催の縦割りあいさつ活動については、各学級の生活班ごとの縦割りあいさつを7日間行い、ほぼ全員が参加することができた。また、定期テスト取組期間中のあいさつ運動では、地区代表の生徒を中心に小学校に出向いて、小学生と共にあいさつを行うなど、あいさつの幅を広げた。



小学生と共に行うあいさつ運動（岐阜小にて）

全校生徒のほとんどが参加してあいさつができたことは成果である。また、中庭ですれ違う一般の方にあいさつをする姿も見られた。さらに、進んであいさつ運動に参加する生徒も増えてきた。このように、校内外でお互いにあいさつを交わすことで、安心して生活できる学校に近付いていると考える。

## ② 掃除大臣の取組

### <取組>

生徒会三本柱の一つである掃除は、生徒会執行部だけでなく全校生徒が大切にしたいことと考え、『3分前集合』や『黙働掃除』を意識して取り組んできた。そのような中「さらに掃除を高めたい」という願いから、本当に真剣に取り組んでいる生徒を『掃除大臣』として任命し、掃除を高めていこうとする動きが生まれた。生徒自身、掃除大臣に選ばれるように、今まで以上に真剣に取り組む姿や、掃除大臣になり名札を付けることでより責任を感じながら黙々と掃除に取り組む姿が見られた。昨年度は、計3回の学級での掃除大臣選出日を設け、掃除大臣が増えることで、掃除を真剣に行う生徒も増えてきた。



掃除大臣任命証を渡す執行部役員

今年度、生徒会執行部から「掃除大臣の基準が甘くなっていたからあれだけの人数になったんじゃないかな。今年は、基準を厳しくして本当の掃除大臣を任命したい。」という意見が聞かれ、6月の『クリーン月間』には、ロング帰りの会を利用して、生徒会執行部と環境委員会を中心に特別企画を行った。生徒会長や環境委員長の掃除に対する思いや、部活動でも外トイレ掃除を真剣に行う野球部2人のこだわりを聞くインタビューなどを聞き、全校生徒が掃除に対する思いを高めた。また、掃除大臣の基準について話をした。

### <成果>

後日各学級で選出した掃除大臣の人数は全校で53名となり、特に2、3年生においては、昨年度よりもかなり人数が減少した。これは、お互いにより厳しい目で選出したためと考えられる。にもかかわらず、掃除開始3分前の集合、始めの会・終わりの会を丁寧に行う姿、一言も話をせずに掃除をする姿が多く見られることから、全体の質は上がってきていることが分かる。こうした姿からも、自分の使ったもの、自分たちの学校を美しくしようとする態度が育ってきていると考える。そして、そのような掃除への姿勢や環境が安心して生活できる学校につながっていると考える。

## ③ 自主的な中庭合唱

### <取組>

三本柱を高めようという願いに加えて、生徒会執行部や創造委員会は12月に行う合唱発表会に向けて全校で練習してより合唱を高めたいという願いをもっていた。しかし、全校で合わせて練習する時間を設けることは難しく、朝活動の時間に2度合わせることが精一杯だった。そのような中で、「全員での練習時間をとることが難しいなら、昼休みに自主的に行えばいいんじゃないか。」という発言が出た。そして、生徒会と創造委員会の呼びかけで昼休みに中庭で合唱を行うことになった。



自主的に行った中庭合唱「ふるさと」

昨年度のこのような動きが今年度の生徒会執行部や創造委員長へとつながり、「また全校で歌いたい」という願いをもって、行動に移していった。さっそく、4、5月に『中庭合唱』を行った。さらに、12月には、昨年度に続いて合唱発表会に向けて、ふるさとの中庭合唱を行った。

### <成果>

いずれも、自主参加であり、昼休みにも関わらず、非常に多くの生徒が集まって合唱を行うことができた。今年度の実践では、創造委員会の提案で「1年生が練習している校歌を全校で合唱したい」と、他学年のことを考えたり、校歌を大切にしようとしたりする思いがあった。また、地域の方や保護者の方にも呼びかけたところ、10人ほどの方が来てくださった。生徒会執行部や創造委員の合唱や合唱発表会に対する自主的な動きは、全校生徒の三本柱の合唱への意識を高めるとともに、全校生徒が自主的に参加できるという、安心できる学校にもつながっていると考える。この思いや動きが続いていくことを願っている。

## (2) 全校生徒が楽しめる生徒による生徒会活動

生徒会では、「全員が参加できる」、「全員が主役」を願って活動している。生徒による様々な企画が行われ、その度に多くの生徒が参加し楽しんでいる。このような生徒会活動は、よりよい学校生活を求める主体的な姿であり、誰もがよりよい学校生活を送ることにつながると考えている。

### ① 昼休みを利用する工夫 ～中央ライブ ON FIRE～

#### <取組>

「文化祭」をやりたい。生徒会メンバーによるこの思いは、行事や日程、時間の面から実現は難しいことであった。しかし、生徒会メンバーは毎日の昼休みを利用して、特技などを披露して全校みんなで楽しむ企画を考えました。昨年度1月に、生徒会主催で『中央ライブ』を行った。昼休みに中庭にて行い、出演したい生徒が歌唱披露やバンド演奏、コント、漫才など披露したいことを行うというものである。生徒会長の提案で全校生徒に呼びかけ、企画を行った。



中央ライブでバンド演奏を披露する生徒

#### <成果>

10組ほどの出演希望があり、1日2組ほどが出し物を披露し、多くの生徒が参観した。昼休み開催で、校舎からライブを見る生徒も多く、あちこちから歓声が上がった。生徒だけでなく、職員3名も参加したり、地域の方が足を止めて見たりするなど、学校と地域とが一体となって楽しい企画となった。生徒たちの、よりよい学校生活を求め自分たちで創り楽しむ姿があった。

今年度も、生徒から開催を求める声があり、1、2月に開催した。昨年度以上の出演希望があり、大いに盛り上がりを見せた。また、準備や後片付けまで時間内で行い、5時間目の授業を時間通り始めることができたことも価値のある動きであった。

## (3) 人権意識向上に向けての取組

昨年度から継続して生徒の人権意識を高めることができるように、様々な行事や生徒会を中心とした活動を行っている。この継続した取組により、暴言や暴力が減ったり、みんなでやろうとする意識もつたりするなど、仲間とかかわり合う姿に変化が見られている。

## ① 岐阜中央中人権宣言の制定

### <取組>

昨年度の「ひびきあいの日」には、人権にかかわる内容のビデオを視聴するとともに、人権啓発センターの安達芳雄先生の講演を聞き、『相手を思いやる言葉遣いが大切』『「～したいと思います。」ではなく、「～します。」と決意することが大切』『一人が100歩前進することより100人が一歩前進する方が大切』など、生徒の心に大変響いた。

その後、各学級で仲間のよさを見つける“輝き見つけ”を毎日行い、各学級で集まったカードを合わせ、ハートの形にまとめ、全校に披露した。また、全校の意見を取り入れる「目安箱」に寄せられた『「岐阜中央中人権宣言」を作ってはどうか』という意見を受け、全校生徒のひびきあいの日感想などから、生徒会が考えた岐阜中央中人権宣言も発表した。

### <成果>

「ひびきあいの日」からつながりのある取組を行うことで、生徒からの声から岐阜中央中人権宣言を作ることとなった。岐阜中央中人権宣言を教室に掲示することで、担任が宣言にあるようなよい姿を価値付けたり、生徒が見て意識できるようになったりし、少しずつよい姿が広まっていった。



全校の輝き見つけを紹介する生徒会

## ② 人権感覚を磨く日の実施

### <取組>

今年度も生徒の人権感覚を磨く場を設けることで、生徒が現在の自分たちの姿を振り返り、よりよい生活や仲間関係を築いていこうとする心情を育てる目的で、『人権感覚を磨く日』を実施した。

### <成果>

昨年度講演をしていただいた安達先生からのビデオレターや生徒会による人権宣言の確認は、昨年度大切にしていたことを思い出すよい機会となった。その際、宣言の内容ができているか自己点検することで、自分の姿としても確認することができた。感想には、「一人の100歩より、100人の一歩が大切だと思い出しました。」や「これからは、〇〇します。」といった言い切りの形で終わる感想が多く、前向きに歩み出していることが伝わってきた。これらの感想は、生徒会執行部が全て読み、各学級一部ずつお昼の放送で紹介することで、全校によさを広めることができた。生徒の手によって、よりよい学校や仲間を求めて活動することができ、安心して生活できる学校づくりにつながった。



生徒会執行部によるビデオ放送  
(岐阜中央中人権宣言の確認)

③ 自分自身の生活を見つめるチェック表の活用

<取組>

今年度、人権感覚を高める日を終え、夏休み前に右のチェック表にて自己点検を行った。点検の内容は、仲間へのかかわり方や正しい行動などである。

<成果>

全体的により結果が得られているが、全校として特に課題のあった項目は、以下のものであった。

②間違いを気にせずに、自分の考えを発表することができる (211人/57%)
⑤誰に対しても同じ態度で接することができる (227人/62%)
⑦一人である子のことを気かけ、声をかけたり遊びに誘ったりすることができる (225人/61%)
⑧人の失敗を笑ったり、冷やかしたりするなど、人を傷つける言動をしていない (264人/72%)
⑭進んでボランティア活動に参加している (200人/54%)。

※アンケート記入者369人中

	こんなことはありますか	計
		369
1	先生や友達と気持ちよくあいさつすることができる。	340
2	間違いを気にせずに、自分の考え(答え)を発表することができる。	211
3	自分のまわりは、わからないところを教え合える雰囲気がある。	331
4	グループで行う実験や作業に入りこそうしている子に声をかけることができる。	272
5	誰に対しても同じ態度で接することができる。	227
6	自分はわかっているから、あるいは授業がおもしろくないからといって私語をしたり騒いだりしていない。	288
7	一人である子のことを気かけ、声をかけたり遊びに誘ったりすることができる。	225
8	人の失敗を笑ったり、冷やかしたりするなど、人を傷つける言動をしていない。	264
9	相手の嫌がることを言わないようにしている。	286
10	苦手な相手がいても、わざと席を離すようなことはしていない。	334
11	部活動や掃除の準備、後片付けは、分担して行っている。	335
12	困っていることや悩んでいることを相談できる人がいる。	325
13	担当の先生がいなくても、きちんと掃除をすることができる。	348
14	進んでボランティア活動に参加している。	200
15	インターネット(スマホなど)で悪口を書いている。	354
16	メールやラインなどで本人の許可なく写真や画像を送っていない。	356

自分自身の生活を見つめよう チェック表

こうした課題への対応として、次のようなことを考えたり、実践したりしている。

2・8…発言しやすい雰囲気をつくったり、よさを価値付けたりするようにしている。また、仲間の失敗や間違いを温かく受け入れる学級づくりを心がけている。

5・7…日頃から仲間へのかかわり方のよさを価値付けたり、よくないことは指導したりしている。生徒会活動では、仲間とかかわり合うことができる活動を考えて行うようにしている。

14…ボランティアに参加している仲間を紹介したり、ボランティアのよさを度々話したりしている。

また、地域の方々からの「地域行事は中学生のボランティアなしでは成り立たない」という話を生徒や保護者に伝えていく。

教職員の学級指導を中心に、生徒会活動においての仲間とのかかわりなどを大切にしていける。また、定期的に自己点検を行うことで、自分の生活を見つめ、よりよい姿・意識になっていくことを願っている。

2. 成果と課題

○学校として大切にしてきた三本柱を大切に活動をし組むことで、全校生徒の主体的な姿を生み出すことができ、あいさつを交わすことや黙々と掃除をすること、精一杯合唱することは、安心した学校生活にもつながった。

●一部、あいさつ、掃除、合唱の姿でまだ弱い部分がある。

→日頃の放送などで、よい姿を具体的に価値付けるなどして、日常から全校に広めていく。

○全校生徒や生徒会執行部の願いを大切にすることで、全校が主体的に参加できる楽しい企画を生んだり、行事を点で終わらせないつながりのある活動としたりすることができた。

●全校生徒の思いを大切にすることから目安箱を設置しているが、投稿が少なかったり、不適切だったりする。

→目安箱の正しい活用を呼びかけていく。さらに、目安箱から採用したことを紹介していきながら、全校生徒の思いを大切にしていることが分かるようにする。

○昨年度のひびきあいの日から、輝き見つけや人権宣言の制定、掲示を行い、今年度その確認や自己チェックするなど、継続した取組をすることで、大切にすべきことや自分のもった決意・思いなどを再確認することができた。相手を大切にする意識をもったことで、安心できる学校生活につながった。

●一部、人権意識に欠ける言動があり、日常的に使ってしまう生徒がいる。

→人権の取組はもちろん、日頃から教職員も学級指導やよさの価値付けなどを行っていく。